

科目	心理学統計法 I	単位数	2
担当教員	宇恵 弘		
履修対象	心理科学科 1 年春学期		
概要と目的	心理学の研究で用いられる統計手法の基礎を学ぶ。		
達成目標	<p>「知識・技能」 (1) 心理学で用いられる統計手法について概説ができる。 (2) データの数量化の意味が説明、統計量の計算、推測統計の説明、統計的仮説検定の説明ができる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」 (1) 正しい計算ができているか、また、正しい統計知識の利用ができているか考えることができる。 (2) 統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」 (1) こころを数値で表現することに関心をもつ。 (2) マスメディアで目にする（耳にする）統計情報に関心をもつ。</p>		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	尺度水準		
3	データの図表化：度数分布とグラフ		
4	代表値		
5	散布度		
6	標準化		
7	散布図と相関		
8	相関とその性質		
9	回帰		
10	確率分布 1		
11	確率分布 2		
12	区間推定		
13	仮説検定 1		
14	仮説検定 2		
15	仮説検定 3		
授業形態／具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の実習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計学	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2,800 円+tax
参考書	心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、1990 年、北大路書房 初めて学ぶ統計学、菅民郎・桧山みぎわ、2003 年、現代数学社		
成績評価の基準・方法	<p>基準 ①心理学で用いられる統計手法と統計に関する基礎的な知識を理解し、②宿題や期末試験による各概念の確認過程で一定の基準をクリアしていれば合格。</p> <p>方法 宿題、期末試験、学習意欲による総合評価。</p>		
留意点	宿題（事前学習と事後学習）は毎時課すので必ず提出すること。特に、復習を必ず実施すること。		
準備学習	事前事後学習のための宿題を提出すること。		
備考	各回の宿題については次週にフィードバックする。	No.	PY621007